

全分野		倫理社会					
学年	第1学年	担当教員名	藤本一司				
単位数・期間		2単位	通年	週あたりの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		「争い」を最小化し、異なる文化や習慣や考え方をもちた人々と「共生」できる市民に成熟するための力を培う。					
		釧路高専目標	A:100%	JABEE目標	a		
履修上の注意(準備する用具・前提となる知識等)		日頃から、現代社会の問題に関心をもつよう心がける。 1 テキストを読み、2 現実と結びつけながら、3 自分一人で考え、4 グループ内で対話し（聴く、話す）、5 発言する。					
到達目標		他者を排除するのではなく、「敬意」をはらって「耳を傾ける」ことが、「対話」を立ち上げ、「幸福」をもたらすことを理解できる。 「他者」とは、「現在」生きている人たちのことだけでなく、「過去」と「未来」の人たちを含めた「世界市民」であることを理解できる。					
成績評価方法		<p>合否判定：定期試験の平均が60点以上を合格とする。 最終評価：合否判定点 ± その他の評価点 (±5点)。</p> <p>※ その他の評価点では、積極的な授業への取り組みをプラス評価として、私語や居眠りなどをマイナス評価として扱う（ただし、最終評価の最高点は100点、最低点は60点とする）。</p> <p>再試験：不合格の場合には、再試験あるいは課題提出を課し、60点以上を合格とする。最終評価は60点とする。</p>					
テキスト・参考書		<p>★ 教科書：藤本一司 『論語と西洋哲学』（北樹出版、2016） ☆ 参考書：藤本一司 『倫理学への助走』（北樹出版、2007） ☆ 参考書：藤本一司 『カントの義務思想』（北樹出版、2010） ☆ 参考書：藤本一司 『生きるための哲学』（北樹出版、2012） ☆ 参考書：藤本一司 『[改訂版]素晴らしきドイツ語の世界—あなたへの敬意から生まれた言語—』（北樹出版、2016）</p>					
メッセージ		楽しく対話ができればと思っています。					
前関連科目		現代社会	後関連科目		歴史総合、法学、哲学、言語と社会		

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
「身体」と「先行者への敬意」(1時間) 「意識」と「身体」(2時間) 「孝」(2時間) 「他者への敬意」(2時間)	「他者との関係」をどのように立ち上げたらよいのだろうか。そのとき、現在の私たちが「不安」であるか「安らか」であるか、が大きな鍵になることを理解できる。
前期中間試験	実施しない
「身体」を肯定する(2時間) 「身体」と「他者」(2時間) 「空間」と「平等性」(2時間) 「打ち倒す」と「引き継ぐ」(2時間)	
前期期末試験	実施する
「身体」と「安らかさ」(1時間) 「身体侮蔑」と「不安」(2時間) 「仁」と「安らかさ」(2時間) 「敬意」と「愛」(2時間)	人と人との豊かなつながりを、現在においてだけでなく、「過去」と「未来」の観点を意識しながら考えることができる。さらに、幸福へ導く「知ること」や「言葉」や「音楽」の意味を深め、「敬意」が果たす力を理解できる。
後期中間試験	実施しない
「身体」と「つながり」(2時間) 「言葉」と「知ること」(2時間) 「言葉」と「社会」(2時間) 「音楽」と「身体」(2時間)	
後期期末試験	実施する

到達目標			
1. 現代社会の様々な問題に対して、哲学や思想の概念を用いながら、整理し説明することができ、どのように向き合うべきかを世界市民の一人として考えることができる。			
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	どのようなことが現代社会の重要な問題であるかを理解し、それに対して適切な哲学の概念を当てはめて説明することができ、世界市民の一人として解決に向けた方向性を考えることができる。	現代社会の問題に関心をもち、それに対して特に重大な問題は何であるかを示すことができ、大まかな整理と説明ができる。	現代社会の問題に関心がなく、あるいは関心があっても何が問題なのかを整理することができない。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力							
分野横断的能力							